

ID No.	330
研究課題名	遺伝子改変マウスを用いた Tetherin/BST-2 の機能解明
研究代表者	安田 二郎 (長崎大学熱帯医学研究所・教授)
研究組織	
受入教員	中江 進 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究分担者	浦田 秀造 (長崎大学熱帯医学研究所・助教)
	坂部 沙織 (長崎大学熱帯医学研究所・助教)
研究報告書	
	<p>インターフェロン誘導性因子の1つである、Tetherin/Bst2 をノックアウトしたマウス(Bst2KO マウス)を作製し、インフルエンザウイルス感染に対する感受性を、野生型のマウスと比較した。1MLD<sub>50</sub>(50%マウス致死量)量のインフルエンザウイルスを、Bst2KO マウスおよび野生型のマウスに感染させ、感染後2週間、生死および体重変化を観察した結果、Bst2KO マウスと野生型マウスで体重変化および生死に差は認められなかった。しかし、ウイルス感染後、肺でのウイルス増殖を比較した結果、感染のごく初期(12時間後)において、Bst2KO マウスで優位に高いウイルス増殖が確認された。これらの結果から、Tetherin/Bst2 は、マウス個体レベルにおける、インフルエンザウイルスの感染対して、それほど重要ではないものの、ウイルス防御の一端を担っていることが示唆された。</p>